

鹿島市総合教育戦略会議（第14回） 議事録（概要版）

1 開催日時 平成29年1月6日（金）10時31分から12時03分まで

2 開催場所 鹿島市役所 3階 庁議室

3 出席者等

- ・法定構成員 樋口市長、田中教育委員会委員長、江島教育委員会教育長、中島教育委員会委員、木原教育委員会委員、田代教育委員会委員
- ・市長部局 藤田副市長、橋村総務部長、大代総務課長兼人権・同和対策課長、打上市民部長、橋村福祉課長、事務局（総務課職員 江頭、中島、吉田）
- ・教育委員会部局 染川教育次長兼教育総務課長、藤家教育総務課課長補佐、山崎生涯学習課長
- ・外部関係 なし
- ・傍聴 なし

4 協議または調整した事項（確認事項含む。）

- (1) 第13回鹿島市総合教育戦略会議（H28.12.2）の議事録について
 - ・議事録素案の内容を確認
- (2) （仮）教職員の業務量の軽減策（案）について
 - 5 出席者の発言のとおり
- (3) （仮）道徳教育としつけに対する取組み（案）について
 - 5 出席者の発言のとおり
- (4) 教育委員の人数について
 - 5 出席者の発言のとおり

5 出席者の発言

(1) 概要

司会：橋村総務部長

1 開会（橋村総務部長）

2 市長あいさつ

樋口市長 あけましておめでとうございます。正月明けて、色々な思いをされただろうと思いますが、私個人的には、青山学院大学が駅伝で勝ったということと、高校で倉敷高校が駅伝で優勝しまして、私たちの町と関わりがあったものですから、その関係の記事とかテレビなどを見ていましたが、教育と結びつけて考えられる

ことが2つありました。1つは、昔とは違って、あまりスパルタというのが通用する世界ではなくなったということ。もう1つは、逆に同じ風を感じたのは、前に進むためには具体的な目標を持たせるということが必要だと思ったことです。青山学院は必勝するような予想になっていたんですが、ところが3人の選手が思ったとおりの走りができなかった。それでも勝つということは具体的な目標、必死の目標があったからだろうと思います。もう1つの倉敷高校は、2年前に鹿島で合宿をしたんですね。以前、監督に祐徳稲荷神社の勝守の話をして、鹿島に来たら優勝できるよ、という話をしていましたら、本当に合宿しに来たんですよ。その2年後に優勝されまして、良かったなあと思っています。結論から言えば、学力ばかりを上げろ上げろと言わなくても、ちゃんとそれぞれに目的を抱かせれば、自分で努力していく。そういう風にさせることが大事で目的を押し付けるのが大事じゃない、という気がいたしたところです。

3 確認事項

第13回鹿島市総合教育戦略会議（H28.12.2）の議事録について
議事録（素案）の内容確認

4 協議事項

(1)（仮）教職員の業務量の軽減策（案）について

（大代総務課長 資料「教職員の業務量の削減策（案）について」説明）

これまで、教職員の多忙化というのは十分認識があられると思うが、ではそれをどうしていくか、事務局で案を列挙した。まず、市から学校等への委託事業等の削減等について、調査物や業務委託などのうち、削減できるものがあれば削減をすること。次に国、県、市からの調査・報告等の簡素化や削減について、国・県へ提言・要望をすること。3つ目は、新たに事務職員又は生徒指導など、教員とは別個に専属的な職員の配置を国県に対してお願いすること。次に、各学校の取組みとして、教員から事務職員へ移管できる業務の範囲の精査し、教員が子どもたちと接する時間を増やすということ。また、経験の浅い教員が指導・助言を受けやすい環境づくりを進めるということを検討したい。さらに、学校の事務職員については、いままでは、採用時点から学校事務専門で採用されていたが、ここ3～4年前から一般事務で県の職員として採用して、県の本庁に配属された職員が、そのまま学校現場の事務職に配置されるというような、柔軟な人事配置がされている。これが進めば、先生がやっている事務についても、もっと事務方の職員が業務拡大できると思う。各学校の2番目の提案として、市内小中学校の校長会との連携

を深めるという点。それから、3番目の学校訪問については、教育長、教育委員としての定期的な学校訪問以外でも、常に教育委員や教育長が、時間があるときに学校を訪問して、普通の学校の状態を視察し、実体を把握することができないかと思う。そうして学校以外でも地域との関わりが、何かできるものがあれば、より良い形になるのではないか。それが今の教育委員会、教育委員としてできるのかどうか、議論していただきたい。できるとすれば、具体的にどんなことができるのか、できないとすれば、どういった点で難しいのか議論をお願いしたい。

- ・学校の先生が、どのような規則やルールに基づいて勤務されているのか、整理が必要ではないか。勤務時間や就業規則など、学校に勤めたことがなければ一般の人は知らないことが多い。調べてみる必要がある。
- ・夏休みも7時間45分の勤務は同じ。毎日出勤している。時間外手当ては無い。
- ・普通のサラリーマンと教職員の勤務実態について整理してみることに。
- ・忙しいというイメージはありながら、勤務実態さえ知っていない。そのあたりをきちっと分かった上で議論しないとイケない。
- ・部活動の対応もあり、4時45分に就業時間が終わっても1～2時間は部活動の指導をしている。部活動は、平日の手当ては出ない。
- ・ほとんどの先生がどこかの部の顧問になっている。規則などで定められているものではない。外部指導者でも可能だが、対外試合などの際に学校職員でないといけない場合もある。
- ・試験の採点などは、家に持ち帰ってやっている先生がほとんど。
- ・先生の勤務時間は、どこまでが正規の業務か、という線引きが難しい。
- ・どこを削るかという議論をするときに、どれが必ずやらなければならないもので、どれは特段しなくても良いもの、と区分ができていなければ、軽減策の議論はできない。それをきちんと区分してまとめてみることに。
- ・軽減策を考えるときに、まず議論する前提として、先生が忙しいということを全員が認識しないと、話はできない。大変だということを共通認識として持たないと、じゃあ削っていこうという話には進まない。
- ・どの学期が忙しいということは、特に違いが無い。それよりも、平和で何にも問題がなく、勉強一筋、スポーツ一筋のクラスのときは良いが、ひとたび問題が起こると土日や夜も出かけたりすることもある。
- ・鹿島市からの委託事業を減らすというが、具体的にどんなものが減らせるだろうか。
- ・例えば、実績報告書の作成などが、先生にとって負担であれば、その提出を取りやめたりとかしてはどうか。ただし、用途を明確にしない、何に使ってもいいですよという交付のやり方では、実績報告書は出してもらった必要がある。

- ・福祉教育については学校に頼んで実施してもらい、実績報告などを上げてもらっているが、本来は道徳の時間などに実施してもらえばいいという考えもある。若干の事業費的な予算を上乗せして、授業の中でやらしてもらえば報告は必要ないと思う。
- ・課外活動など、学級や学年で動くときは、ちゃんと計画書を作ってもらい、結果がどうだったという取りまとめもやっている。
- ・かつてあった、春の相撲大会や水泳大会、陸上大会は現在はやっていない。一部の児童しか参加しないようなものは、なくしていった。
- ・学校訪問について、教育委員の訪問回数を増やせば、その対応で先生たちの仕事が増えるという心配がある。学校や先生は何も対応しなくていいから、と負担にならないやり方で訪問ができればよいが。
- ・教職員の多忙化の対策として、教職員でなければできない仕事をするために、それ以外の業務を代わりにやる事務職員の配置ができないか、ということをお願いしているが、国県にお願いしてはという案については、意見の最終的な整理はできず。
- ・現在、臨時教員・講師という立場の方が多く配置されている。これを正規の職員を配置してもらえば随分違ってくる。学校の色々な仕事がある中で、やっぱり正規の職員でなければ頼みにくいという仕事がある。
- ・臨時講師の中にも立派な先生はいる。このような人を正規職員として採用してもらいたいというお願いはしている。やはり経験・実績がある人を採用できたほうが良い。

(2) (仮) 道徳教育としつけに対する取組み(案)について

(大代総務課長 資料「道徳教育としつけに対する取組み(案)について」説明)

- まず、家庭・幼・保・学校の取組みについて、学校生活又は学校内でのシチュエーションを想定し「チェックシート」又は「目標シート」などを活用した取組みを実施する。前回の会議のときにしつけのチェックシートの提案があったので、カラー版のシートを事務局で準備した。こういったチェックシートを作って各家庭に配布してはどうか、ということで内容・項目についても、また議論していきたい。シート項目を見ていくと、あいさつや、言葉使いというところは結局は親がどうあるべきか、ということにもつながると感じたところ。次に市としての取組みでは、しつけに関する親子教室的な取組みを実施するとか、事業に必要な予算措置を行うということをあげている。地域での取り組み、育友会、子どもクラブ、地域行事、社会体育などで、どんどん子どもの数が減ってきている中で、地子連とかクラブ活動の地域単位でのチームづくりができなくなっているような状況にあると聞く。こういった地域での取組みが可能なのかというお話をしたいと思っています。
- ・15項目のたたき台を、鹿島市の子ども達にとって何が大事なことで、何がそうで

もないかという取捨選択をして、最終的な形にしていきたい。

- ・これは、最初の取っ掛かりが、今の若い保護者の補助教材のようなものを作ろうとしてスタートしたものであるから、学校ではなく保護者に取り組んでもらうものになると思う。
- ・チェックシートについては具体的に実施の方向で進めていくが、家庭での取り組みになるのであれば、PTAなどとも話を通しておかなければならない。
- ・保護者がいる家庭か、あるいは全世帯かは別として、配ってもらいたい。内容を煮詰めて、いろんなどころにすり合わせをして進めてもらいたい。
- ・これは、就学前の子ども達も対象になってくると思う。むしろ、小さいときからのしつけという意味では、就学前の子どもがいる家庭への発信が大事かもしれない。
- ・そうなれば、保育園などともすり合わせが必要だろう。
- ・地域の伝統芸能などとの関わりについて、最近は子どもも少なくなって、かつては男子だけ参加としていたところ、女の子も一緒にやっているところが多い。そうでないと継続できないような状態。

(3) 教育委員の人数について

(大代総務課長 資料「教育委員数について」説明)

教育委員の数について、これについてはある程度の方向性が前回までにできたと思う。新たな教育委員会制度においては教育長及び4人の教育委員で組織する、とし、今後適正な教育委員の数については適宜検討するという事で、現状では5人のままでいく、という方向性がまとまったと思う。

- ・教育長及び教育委員4人という人数については今増やすという議論にはなっていないという認識で一致していると思う。
- ・今の人数では忙しくて大変だ、ということであれば増やさなければならない。
- ・今の人数を変えなくて良いだろうというのではなく、この人数で鹿島市教育委員会として期待されている役割をきちんとやってもらえる、やってもらえるはずだという前提を整理した上での人数であることを認識していなければならない。

6 その他

- ・嶽水道をテーマに古枝小学校の子どもが賞を受賞した。
- ・次回は教職員の業務量の軽減案についてももう少し具体的な案を作りたい。
- ・鹿島高校赤門横の大楠が伐採される。思い入れのある方は見ておいてください。

(12 : 03)

・ 次回開催日 平成 29 年 5 月 1 日 (月) 15 : 00 内容「未定」